スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

## 地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

# 熊本県 玉名市


自 治 体 名 ： 熊本県玉名市
担 当 課 名 ： 教育委員会 スポーツ振興課
電 話 番 号 ： ０９６８-７５-１１２９

# 1.自治体の基本情報

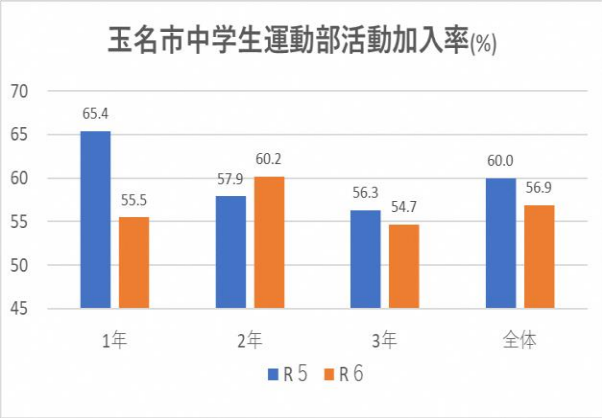
スポーツ庁

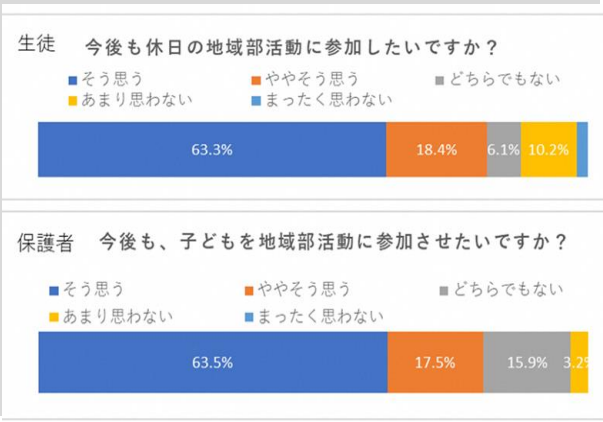
## 基本情報

| | |
|---|---|
| 面積 | 152.6 ㎢ |
| 人口 | 62,619 人<br>（2024.11現在） |
| 公立中学校数 | 6 校 |
| 公立中学校生徒数 | 1,537 人<br>（R6.4月現在） |
| 部活動数 | 52 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済 |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 策定済 |

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

- 本市における中学生数は、１０年前と比較すると約５００人減少しており、集団スポーツのチームが単一校では組めない状況が慢性的に続いている。また、学校部活動の設置数も減少し、小規模校においては自分が通う学校にやりたい部活動がない状況もある。
- 本年度の玉名市中学生運動部活動加入率は、56.9%（昨年60.0%）であった。昨年よりも加入率は減少し、特に第１学年の運動部活動入部者が減った。また、種目では、昨年と同様に、陸上・バドミントン・ソフトテニス等の個人競技種目への加入者が多く、全体の約半数を占めている。
- 実証事業１年目の昨年は、１０月より拠点校方式や合同部活動方式（「玉名モデル」）で、休日の地域部活動（９部、部員１０６名、指導者１８人）を立ち上げることができた。意識調査では、生徒・保護者の約８割が今後も参加したいと回答した。
- 実証事業２年目の本年度は、昨年の地域部活動の実績に基づき、校長ヒアリング、保護者啓発・説明会を通じて指導者を確保しながら、生徒がやりたいスポーツができる環境づくりやまとまった人数で充実した活動ができる地域部活動を全体の６～８割設置することを目標とする。



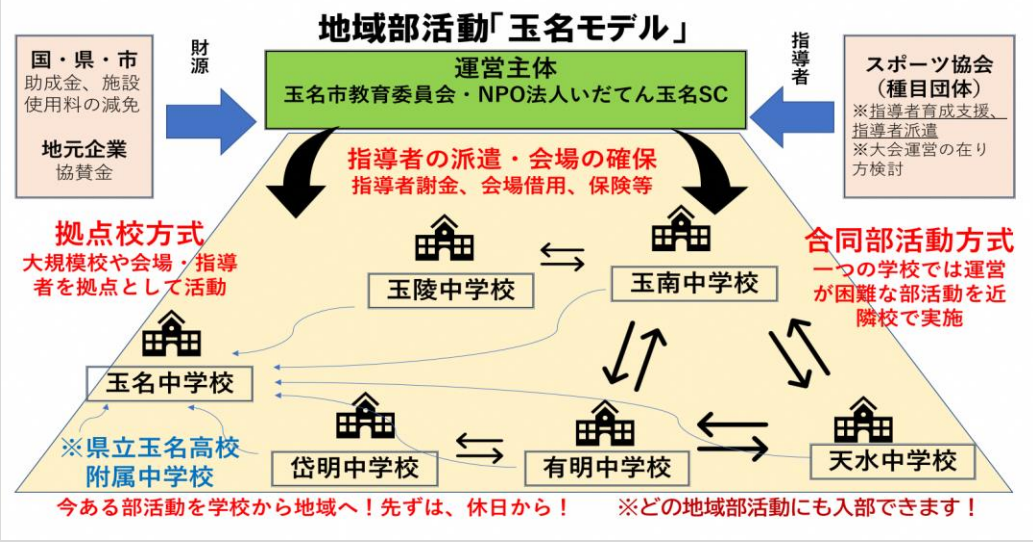



# 2.実証内容と成果①

スポーツ庁

## 運営体制･役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）




●行政組織内での役割分担

教育総務課（学校教育）
　総括コーディネーター（兼文化部活動担当）１名
　　検討委員会（案内、進行、まとめ）
　　文化部活動地域移行計画立案

スポーツ振興課（社会教育）
　コーディネーター（運動部活動担当）１名
　　運動部活動地域移行、いだてん玉名SC･スポーツ協会等連絡調整
　会計年度職員１名
　　名簿管理、指導者謝金支払、保険対応等

## 年間の事業スケジュール

| | |
|---|---|
| 令和６年５月 | 第１回指導者研修会 |
| 令和６年５月 | 第１回検討委員会 |
| 令和６年７月 | 第２回検討委員会 |
| 令和６年８月 | 第２回指導者研修会及び部活動地域移行啓発講演会 |
| 令和６年１１月 | 地域部活動運営会議 |
| 令和６年１１月 | 第３回検討委員会 |
| 令和６年１２月 | 先進地視察研修（静岡県） |
| 令和７年１月 | 新入生説明会 |
| 令和７年２月 | 第４回検討委員会<br>第３回指導者研修会 |

# 2.実証内容と成果②

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の運営実績

### ①全体に関すること

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中学校数 | ６校 | 実施した地域部活動総数 | ２４ クラブ |
| ケース別クラブ数 | A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数） | | ２４クラブ（ ３８部活） |
| | B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等） | | ０ クラブ |
| 全体の指導者数 | 64 人 | 全体の運営スタッフ数 | 26人 |

### ②各地域部活動に関すること（抜粋）

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目<br>※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者（学年別） | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数（他クラブと兼務） | 会費 | 大会参加方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 玉名STC | いだてん玉名SC（総合型地域スポーツクラブ） | ソフトテニス | 月 ４回（休日） | 練習時は午前中 | 1年：6人<br>2年：11人<br>3年：4人 | 練習時は３時間程度 | 玉名市立蛇ヶ谷テニスコート | ４人 | １人（兼務） | 月会費 1000 円<br>年会費8000 円<br>(保険代込み) | 中体連大会に学校部活動として参加 |
| 玉名中女子バスケット部 | いだてん玉名SC（総合型地域スポーツクラブ） | バスケットボール | 月 ４回（休日） | 練習時は午前中 | 1年：7人<br>2年：8人<br>3年：1人 | 練習時は３時間程度 | 玉名市立玉名中学校体育館 | 2人 | １ 人（兼務） | 月会費<br>5000 円<br>年会費8000 円<br>（保険代込み） | 中体連大会に学校部活動として参加 |
| 岱明男子バレーボール部 | いだてん玉名SC（総合型地域スポーツクラブ） | バレーボール | 月 ４回（休日） | 練習時は午前中 | 1年：6人<br>2年：3人<br>3年：4人 | 練習時は３時間程度 | 玉名市立高道小学校体育館 | ２人 | １人（兼務） | 月会費 2000 円<br>年会費8000 円<br>（保険代込み） | 中体連大会に学校部活動として参加 |

### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

●スポーツバイキング（複合種目体験教室）の開催（年４回）　延べ参加人数６００人
　実施種目：バレーボール、バドミントン、卓球、ラグビー、ソフトテニス、ハンドボール、剣道、トランポリン、パルクール、フリスビー、キッズバレー、コーディネーショントレーニング等

# 2.実証内容と成果③

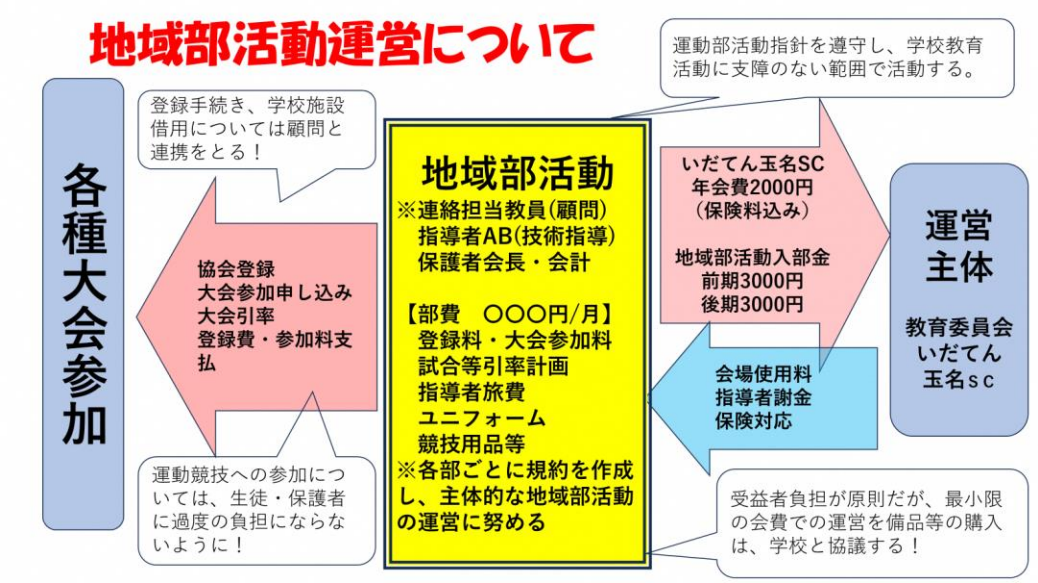
スポーツ庁

## 主な取組例

### ●地域部活動　活動概要

| | |
|---|---|
| 地域クラブ活動で実施した種目 | サッカー、野球、バレーボール、バスケットボール、卓球、剣道、柔道、バドミントン、ソフトテニス、ラグビー、ハンドボール<br>１１種目（２４地域部活動） |
| 運営団体名 | NPO法人いだてん玉名SC<br>（総合型地域スポーツクラブ） |
| 期間と日数 | 休日（土・日・祝日）のみ<br>原則：４日/月 |
| 指導者の主な属性 | 会社員、公務員、自営、教員 |
| 活動場所 | 各学校、社会体育施設 |
| 主な移動手段 | 保護者送迎、自転車、徒歩など |
| １人あたりの参加会費等（年額） | 入部金　6,000円<br>各部費　12,000円～60,000円<br>（各部ごとに異なる） |
| １人あたりの保険料 | 総合型地域スポーツクラブ専用保険<br>年会費2,000円（保険料込み）<br>（生徒、指導者も同額） |

### ●運営体制図（地域部活動を実施する際の運営体制図）




### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●運営主体（教育委員会・いだてん玉名SC）

役割：会場使用料・謝金支払、保険対応等

●地域部活動　64名（複数体制）

役割：協会登録、大会参加申込、技術指導、備品管理等

●保護者会　各部数名

役割：会計、大会引率補助等

# 2.実証内容と成果④

**ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**取組事項**

- 教育総務課に総括コーディネーター１名を配置し、検討委員会の開催や文化部との連絡調整を行う。
- スポーツ振興課にコーディネーター１名、会計年度職員１名を配置し、関係スポーツ団体と中学校部活動担当者との連絡調整、地域部活動運営の指導助言、事務処理等を行う。

**取組の成果**

- 昨年に引き続き年間４回の中学校部活動地域移行検討委員会を開催し、休日の地域部活動「玉名モデル」（拠点校方式や合同部活動方式）の進捗状況を報告
- 各学校長、部活動担当者とのヒアリング等で、学校部活動と連携した休日の地域部活動の在り方について検討
- 昨年度末９部活動、４月当初17部、12月現在で24部、部員471名、指導者64名の地域部活動がスタートした。
- ８月にはスポーツ庁スポーツクラブ活動アドバイザー小出利一氏を講師に保護者啓発講演会を開催した。さらに、１２月には静岡県焼津市教育委員会と掛川市教育委員会を視察し先進地の取組を学ぶことができた。



小出利一氏による講演会
2024.8.7

**コーディネーターの具体的な動きの実績**

- 中学校部活動地域移行検討委員会開催、運営、議事録の作成
- 各学校長へのヒアリング、中校長会議での説明
- 学校部活動会計担当者会の開催、指導助言
- 関係団体（いだてん玉名SC、スポーツ協会等）との協議
- 各地域部活動の運営会議、保護者説明会の開催
- 玉名市地域部活動広報活動（ホームページ、広報志への掲載）

**今後の課題と対応方針**

- 各学校の陸上部や吹奏楽部の休日の地域移行ができていない。学校側と関係団体との協議を重ね令和７年度中に条件整備をしたい。
- 平日の学校部活動と休日の地域部活動の連携を深め、徐々に平日の地域部活動の条件整備を行いたい。
- 令和８年度以降、持続可能な地域部活動の運営ができるための財源の確保、指導者・運営者の確保が大きな課題である。

# 2.実証内容と成果⑤

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
**イ：指導者の質の保障・量の確保**
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

**取組事項**

- 指導者研修会の開催
- 指導者研修会を年３回（５月、８月、３月）開催し、運営方法の質の向上を図り、指導者登録を促すことで量の確保を図る。
- 運営会議の開催
- ホームページによる地域部活動募集

**地域部活動の人数**

６４名

**年齢構成**

| | |
|---|---|
| 10代 | 0名 |
| 20代 | 9名 |
| 30代 | 17名 |
| 40代 | 16名 |
| 50代 | 13名 |
| 60代以上 | 9名 |

**登録者属性**

| | |
|---|---|
| 教員 | ２１人 |
| （県立中1人） | |
| （私立高校1人） | |
| 会社員 | ２４人 |
| 公務員等 | １０人 |
| 自営 | ６人 |
| 無職 | ３人 |

**種目**

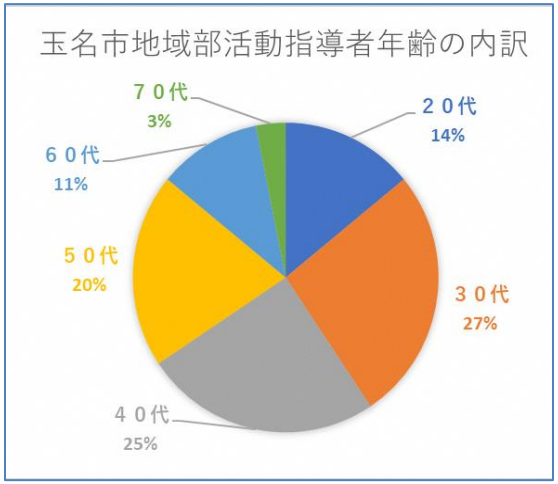
バレーボール10人
バスケットボール13人
バドミントン7人
ハンドボール2人
ソフトテニス6人
サッカー8人、ラグビー3人
野球5人、卓球3人
柔道5人、剣道2人

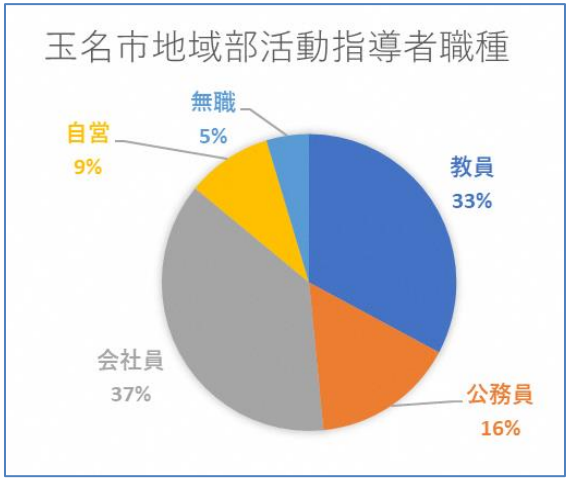
**資格有無**

指導者資格有　30人
（日本スポーツ協会公認指導者は10人）
※玉名市では日本スポーツ協会公認指導者資格取得者への補助制度があるが、新たな取得者はいない。

**取組の成果**

- これまでの中学校部活動外部指導者や玉名市スポーツ協会の指導者の方々に、地域部活動説明会や個人面談等を実施したり、玉名市公式ホームページに地域部活動指導者募集案内を掲載したりして、６４名の地域部活動指導者を確保することができた。
- 年３回の指導者研修会や運営会議を開催し、指導者の資質向上とともに、地域部活動の運営面での課題解決に向けた協議を行った。



# 2.実証内容と成果⑥

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
**イ：指導者の質の保障・量の確保**
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②**

### 指導者研修の内容

【第１回指導者研修会】 5/10：玉名市総合体育館
・対象　地域部活動指導者　２２名参加（対象者３７名）
・内容 「体罰・ハラスメント防止・不祥事防止」について
令和６年度玉名市地域部活動実施状況について
その他（事務連絡：業務月報の提出方法等について）
※欠席者には、個別に面談して研修内容を伝えた。

【第２回指導者研修及び部活動地域移行啓発講演会】
8/7　玉名市民会館（マルチホール）　４０名参加
・対象　地域部活動指導者、部活動地域移行検討委員、
行政関係者、学校関係者、PTA関係、一般など
・内容　講演者：小出利一氏（スポーツクラブ活動アドバイザー）
演題：「新たな部活動、ジュニアスポーツ環境」
※講演会の前に行政説明を行い、地域部活動の現状を報告した。

【地域部活動運営会議】 11/6　玉名市民会館　第１会議室
・対象　地域部活動指導者、保護者代表　５１名参加
・内容　地域部活動運営、規約の作成について
部活動アプリに活用について

【第３回指導者研修会】 3/17　玉名市総合体育館で開催予定！

### 受講者の声

【部活動地域移行啓発講演会の感想】
- 「〇〇市部活動あり方検討会の委員として参加させていただきました、とても学びの多い講演会で勉強になりました」
- 「部活動改革は最終的には地域活性化を目指す取り組みとのお言葉が心に響きました。正直私の発想にはない考えでした]
- 「中学校には説明されているみたいですが、今の小学校には説明があっておらず、小学生の保護者としては不安でたまりません」

【運営会議での参加者の声】
- 「集金を振込か引き落としにしてほしい」「玉名市からの補助制度があると保護者も資金面で助かります」
- 「各部の部費はいくらぐらいになるのか、運営はどうしているの知りたい」

### 今後の課題と対応方針

【指導者研修での課題】
- 参加が少ないため研修内容と参加体制の見直しが必要
- 資格取得のための補助制度の確立、謝金の見直し

【地域部活動運営面での課題】
- 集金方法の検討と連絡用アプリの活用
- 運営面での課題解決のための協議会が必要

# 2.実証内容と成果⑦

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
**ウ：関係団体・分野との連携強化**
**エ：面的・広域的な取組**
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化　エ：面的・広域な取組**

### 取組事項（ウ）

- 保護者、指導者（スポーツ協会等）、一般向けに中学校部活動地域移行啓発講演会の開催、玉名市公式ホームページや広報たまなへの地域部活動進捗状況の掲載、PR動画の作成を行った。

### 取組の成果（ウ）

- 玉名市スポーツ協会評議員会で地域部活動進捗状況の説明を行い、理解と協力を求めた。
- 玉名市６中学校での新入生説明会（右図：有明中）で地域部活動の説明を行った。
- 地域部活動説明用パンフレットや約６分のPR動画を作成し保護者説明会等で活用した。



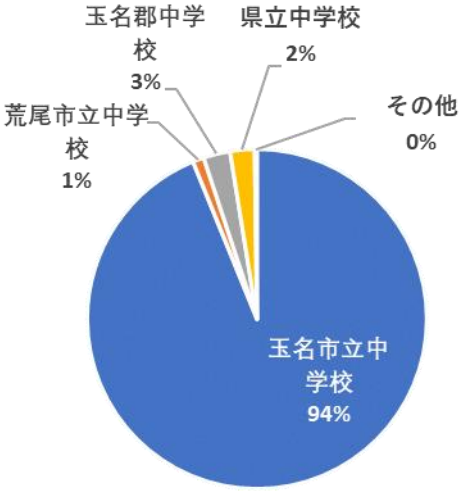
### 取組事項（エ）

- 玉名教育事務所社会教育担当者と連携し、年４回、玉名市、荒尾市、玉名郡４町の部活動地域移行担当者会議を開催し、情報共有・意見交換会をおこなった。

### 取組の成果（エ）

- 玉名市立中学校以外の学校でも部活動における課題は同様で、自分のやりたい種目がない生徒を中心に、本市の地域部活動に全体の6.6%の中学生が参加している。今後、少子化が加速すれば、玉名荒尾地区広域での地域部活動運営を考える必要がある。

**地域部活動参加者の内訳**




### 今後の課題と対応方針

- 小学校の保護者、教職員等への啓発等が不十分で、周知不足を感じる。今後、講演会や広報・HP等での周知やスポーツ協会事務局や市PTA連合会と連携し理解を深めたい。
- 玉名荒尾地区以外の生徒の中体連大会参加については制限がある。中体連以外の大会も同様である。今後、市町村またぎでの参加基準の規制緩和についてスポーツ協会や種目団体との協議が必要である。

# 2.実証内容と成果⑧

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
**オ：内容の充実**
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　オ：内容の充実**

**取組事項**

【スポーツバイキングの開催】

- 地域部活動指導者の協力のもと、教育委員会・NPO法人いだてん玉名SCの主催で、複数のスポーツを体験できるイベントを年４回実施した。
- 現在の学校部活動にない運動・スポーツ体験も実施した。
- 親子で運動・スポーツに親しめる場として親の参加費は不要とし、自由に体験できる場を設定した。
- けが防止のため、開始時は全員で準備運動を兼ねたダンスやエアロビクス等を行った。
- 九州看護福祉大学の協力で、付き添いの大人向けに体組成測定や運動能力測定も実施した。

**スポーツバイキング活動の詳細（６/１、９/29、12/1の３回の報告）**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 参加人数 | 504人（176人、163人、165人） | 指導者数 | 50人（12人、18人、20人） |
| 対象者 | 主な対象者は、小中学生　（希望する園児・大人も参加可能）<br>※玉名市内すべての小中学生にチラシを配布、ホームページや広報でも案内 | | |
| 具体的な内容 | バレーボール、バドミントン、卓球、ソフトテニス、ラグビー、ハンドボール、剣道、トランポリン、パルクール、キッズバレー、コーディネーショントレーニング、ダンス、フリスビー、レスリング、エアロビクス、運動能力反応検査、体組成測定など玉名市総合体育館（メインアリーナ、サブアリーナ）にて、地域部活動の指導者の協力で体験教室を開催した。 | | |
| 親・子供の声 | ● 中学校で何の運動部活動に入部しようかと迷っていたが、いくつかの種目を体験して興味がわいた。中学校では運動部活動に入部して頑張りたい。（小学生）<br>● 中学校部活動以外のいろいろな運動・スポーツを体験できてとても楽しかった。（中学生）<br>● 親子で楽しく運動・スポーツに親しむことができました。次回もまた参加します。（保護者） | | |
| 関係者の声 | ● 運動・スポーツの楽しさに触れるよう工夫して、体験教室を行った。競技人口の増加につながる良いイベントになると思います。<br>● スポーツバイキングのおかげで、スポーツ教室の入部者が増加しました。<br>● 運動・スポーツに楽しく参加している子どもから元気をもらいました。<br>● 親子で楽しく運動・スポーツに触れることのできる楽しいイベントだと思います。玉名市スポーツ協会と連携し、今後、さらに多くの種目が体験できるイベントにしてほしい。 | | |
| 運営経費 | 参加費　一般５００円（会員無料）<br>会場費　減免（玉名市教育委員会主催）<br>指導者謝金、消耗品等 | | |



# 2.実証内容と成果⑨

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
**カ：参加費用負担の支援等**
**キ：学校施設の活用等**
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等　　キ：学校施設の活用等**

### 取組事項（カ）

- 生活困窮家庭への参加費の支援についての協議
- 学校部活動と地域部活動の消耗品の共有化
- 学校部活動会計担当者会議での学校部活動補助金額の見直し

### 取組の成果（カ）

- 生活困窮家庭への参加費支援ついては検討委員会で提案し、関係機関と協議を重ねている。
- 教育総務課担当及び学校部活動会計担当者との協議会（下図）を行い、学校部活動補助金の金額及び使途を見直した。



### 取組事項（キ）

- 学校施設施錠開閉システム「まちかぎリモート」の活用
- 学校施設、社会体育施設等を使用する場合のルールを策定する。

### 取組の成果（キ）

- 玉名市では、すべての学校体育館が令和４年４月から「まちかぎリモート」で管理されている。予約はインターネット、施設の開閉はリモートロックとなっているため（右図）、地域部活動指導者が暗証番号で体育施設の開閉ができる。管理職や担当教員不在でも体育施設の使用が可能となり、教員の負担軽減につながっている。
- 社会体育施設の借用については、指定管理者へ地域部活動の趣旨説明を行い、学校部活動と同様に借用ができるようになった。



### 今後の課題と対応方針

- 学校体育施設の予約は「まちかぎリモート」で優先的に予約できるが、社会体育施設については指定管理者が施設ごとに異なるため、対応が統一されていない。
- 地域部活動の指導者と社会体育施設管理者との協議会を開催し、課題解決のための方策を検討する必要がある　小学校体育施設の借用については、学校側との十分な協議が必要である。

# 2.実証内容と成果⑩

スポーツ庁

## 総括・成果の評価・今後に向けて

### ●総括

◆実証事業２年目の本年度は、年度当初から１７の地域部活動、さらに中体連後の新チームからは２４の地域部活動（部員４７１人、指導者６４人）が活動している。**玉名市全体の約８割の休日の部活動が地域部活動となった。**

◆これまで学校部活動の外部指導者として携わってこられた方々や玉名市公式ホームページでの指導者募集、スポーツ協会種目団体への呼びかけなどで、指導者の確保が進んだ。

◆自分の通う学校に希望する部活動がない生徒や少人数でチーム編成ができない部活動が、週末はまとまった人数で質の高い練習や試合ができる環境になった。

◆平日の学校部活動のみ入部する生徒や平日とは別の種目の地域部活動へ入部する生徒など、多様なニーズに対応する環境づくりができた。

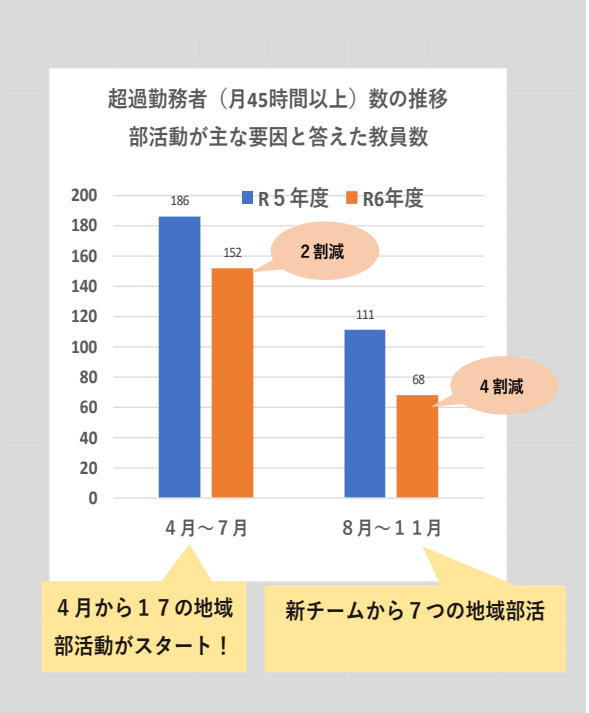
◆地域部活動では、小学生や高校生との交流もできるため、地域に根ざす地域クラブにつながる可能性のある仕組みとなりつつある。

### ●成果の評価

◆参加した**生徒の８割が「地域部活動に満足している」**と答え、**８割の保護者が「今後も地域部活動に参加させたい」**と答えている。

◆教職員のアンケートでは、７割が「負担感が軽減した」、**９割が「今後も地域部活動を継続してほしい」**と答えている。

◆全体の８割の休日の部活動が移行したことにより、玉名市内の中学校教員の超過勤務者（月45時間以上）で、「部活動が要因」と答えた教員の数が前年度同時期と比較し、延べ283人から220人へ大幅に減少した。特に、昨年の７月～１１月の比較では、４割近い減少が認められた。（右図）




### ●今後に向けて

地域移行できていない2割の部活動については、今後担当者と種目協会との協議を行い、指導者が確保できた時点で、保護者説明会を実施し地域への移行を進めたい。

また、中学校の部活動地域移行は、中学校だけの問題ではなく、小学生も含めた玉名市内すべての子供たちがやりたいスポーツに安心して取り組むことができる環境づくりを最終目標としている。今後、学校部活動にはないが子どもたちの興味関心が高い運動・スポーツも地域部活動として設置し、多くの子供たちが運動に親しむ環境づくりを推進したい。

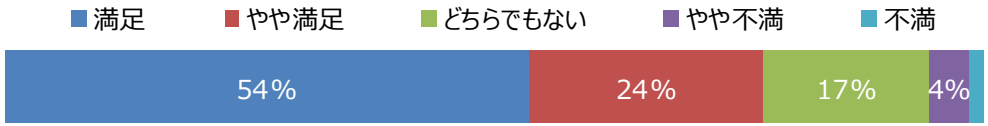
# 2.実証内容と成果⑪

スポーツ庁

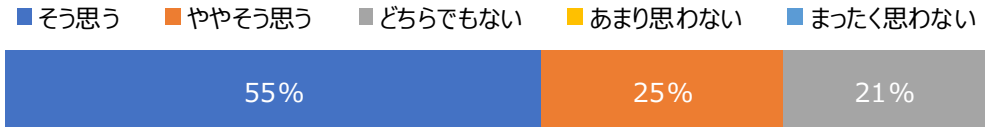
## アンケート結果・参加者の声

### ●アンケート結果

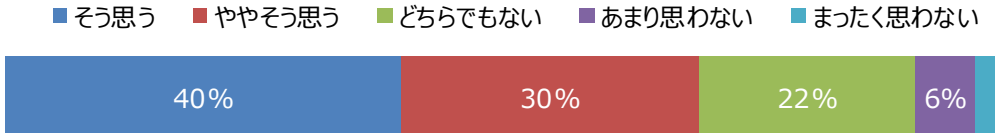
生徒　**あなたは、地域部活動に満足していますか？**



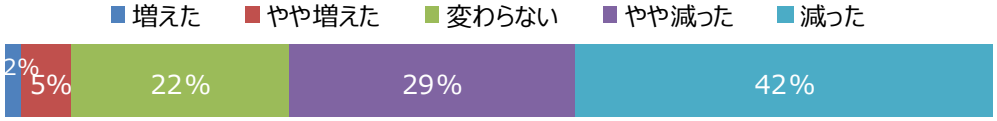

保護者　**今後も、子どもを地域部活動に参加させたいですか？**




指導者　**今後も地域部活動での指導に従事したいですか？**




教職員　**部活動への負担感はどう変化しましたか？**




### ●参加者の声

**中学２年生　バドミントン部**
学校でできない練習やレパートリーが増えて、バドミントンも上達するし楽しい。他の学校の生徒との交流もできて楽しい。

**中学１年生　軟式野球部**
多い人数で練習したほうが、試合に近い練習ができるから良いなと思う。これからみんながどんどん馴染んで、声を出していけたら良いなと思う。

**保護者**
娘が小学生の時にバレーボールを続けてきたが進学する中学校にバレーボール部がなく、どうしようか悩んでいたら地域部活動ができたおかげで、専門的な指導者のもとに継続してバレーボールできるようになってとてもありがたく思っています。

**顧問の先生**
私自身バレーボールの経験がなかったため指導に不安があったが、地域移行することによって専門的な指導を子どもたちが受けることができて技能の向上に繋がっている。

# 2.実証内容と成果⑫

## 広報資料

スポーツ庁




| 地域部活動名 | 代表指導者 | 活動場所 |
|---|---|---|
| 男子バレーボール（玉名） | 尾崎潔久 | 玉名中学校体育館 |
| 女子バレーボール（玉名） | 田代俊哉 | 玉名中学校体育館 |
| 男子バレーボール（岱明） | 池田琴美 | 高道小学校体育館 |
| 女子バレーボール（岱明） | 小椛洋章 | 岱明中学校体育館 |
| 男子バレーボール（有明・天水） | 西嶋秀一 | 有明中学校体育館 |
| 女子バレーボール（有明・天水）「有明HS」 | 木下重行 | 有明中・天水中学校体育館 |
| 男子バスケットボール（玉名） | 南恵輔 | 玉名中学校体育館 |
| 女子バスケットボール（玉名） | 伊藤千穂 | 玉名中学校体育館 |
| バスケットボール（岱明） | 江田剛 | 岱明中学校体育館 |
| バスケット（玉南・玉陵・有明・天水）「有明Nexus」 | 久保愛 | 玉南中学校体育館 |
| ハンドボール（玉名） | 井手信幸 | 玉名中ハンドボールコート |
| ソフトテニス（玉陵・天水）「玉名STC」 | 中村和裕 | 蛇ヶ谷テニスコート他 |

| 地域部活動名 | 代表指導者 | 活動場所 |
|---|---|---|
| 柔道（玉名） | 山村好弘 | 玉名中学校武道場 |
| 柔道（岱明）「光道場」 | 藤原光史 | 岱明中学校武道場 |
| 剣道（有明） | 西村侑一郎 | 有明中学校武道場 |
| 卓球（玉名・岱明） | 上田正之 | 岱明B＆G卓球場 |
| ラグビー（玉名） | 仲山延男 | 河川敷ラグビー場 |
| サッカー（玉名） | 轍翔太郎 | 玉名中学校グラウンド |
| サッカー（有明） | 金澤亮 | 有明中学校グラウンド |
| サッカー（岱明） | 古門慎也 | 岱明中学校グラウンド |
| バドミントン（玉名）「玉名BC」 | 原謙治 | 玉名中学校体育館 |
| バドミントン（玉陵）「いだてん玉陵」 | 三次圭介 | 玉陵中学校体育館 |
| バドミントン（岱明）「Nice one」 | 境恵司 | 岱明中学校体育館 |
| 野球（玉陵・玉名・有明）「オール玉名」 | 立山貞一 | 玉陵中学校野球場 |

【広報たまな2025.２月号での掲載記事】

# 2.実証内容と成果⑬

スポーツ庁

## 参考資料（活動写真）



【岱明バドミントン「Nice one」の練習風景　指導者は他校の教員】



【地域部活動として地区大会に参加した女子バレー「有明HS」】



【野球「オール玉名」の初練習会の様子 25名が参加】



【ソフトテニス「玉名STC」の社会体育施設による練習風景】

# 2.実証内容と成果⑭

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

| 令和４年 | 令和５年 | | 令和６年 | | 令和７年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 検討委員会設置、検討開始、アンケート調査 | 実証事業1年目 受け皿団体や指導者の選定、拠点校の選定 | 指導者確保、保護者説明会、地域部活動（玉名モデル）開始（９部） | 実証事業２年目 年度当初地域部活動の拡大（17部） | 新チームより地域部活動の拡大Ⅱ（24部） | 実証事業３年目 すべての部活動を地域部活動へ |

**ステークホルダー**

学校、スポーツ協会、競技団体、市教委、総括コーディネーター、コーディネーター、NPO法人いだてん玉名SC（総合型地域スポーツクラブ）

**経過**

- 令和４年度より検討委員会（年３回）・座談会（年３回）を開催し、教員・保護者・生徒向けアンケートを実施した。
- 令和５年度（実証事業１年目）は、検討委員会で、教育委員会とＮＰＯ法人いだてん玉名ＳＣが運営主体となる地域部活動「玉名モデル（拠点校方式・合同部活動方式）」を提案。学校・保護者・指導者への説明会を経て、９つの休日の地域部活動がスタートした。

**実施内容**

- 本年度（実証事業２年目）は、４月当初１７の地域部活動がスタート、新チームの９月からは２４部となり、学校部活動全体の８割について休日の活動を地域へ移行することができた。平日は学校部活動、休日の大会参加は地域部活動として出場している。

**実施にあたって生じた課題**

- 平日の学校部活動と休日の地域部活動の指導者が異なるため、学校部活動担当者と地域部活動指導者との連携が課題である。
- 異なる学校から集まる地域部活動なので、連絡体制の構築、新たな保護者会規約の作成などが必要となった。
- 平日も地域部活動指導者による一貫指導を求める声が多い。
- 実状に合致した指導者謝金の見直しや消耗品等の購入など保護者負担軽減のための財源の確保が求められる。

**今後の展開**

- 令和７年中には、市内すべての中学校において、休日の地域部活動を実施する。また、持続可能な地域部活動運営とするために、会費負担を増額し保護者の理解を得るために、パンフレット等を作成し、会費負担の必要性について説明する。
- 部活アプリを導入し、事務局からの連絡体制や地域部活動への入会申込や部費納入事務の負担軽減のためのシステムを構築する。

# 3.今後の方向性

スポーツ庁

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

### 「地域部活動」玉名モデルのこれからⅡ

